

雑賀崎・田野地区の未来を考える
第二回地域ワークショップ

タイムスケジュール

15分	オープニング・ 目的共有	開会あいさつ 本プロジェクトの目的及び構想策定会議 共有や、WSの位置づけ説明 地方創生に見識のある有識者から出た意見の紹介
10分	ルール説明・ 役割分担	今日やることの説明「未来の雑賀崎・田野 デザイン委員会 10年後作戦会議」 くじ引き・役割カードの配布 発表いただくこと（ゴール）・実際の進め方の共有
35分	グループ議論 （未来想像）	役割に基づき、活用すべき場所等と方法について議論 活用したい場所、活用方法、活用時の理想の参入事業者像をまとめる
25分	グループ発表 （6組×2分程度）	各テーブルの代表が、マップをもとに発表 他地区からのコメント（雑賀崎→田野/田野→雑賀崎）
5分	ラップアップ・ まとめ	ファシリテーターが全体を整理 クロージング

雑賀崎・田野エリアを中心とした地域のブランド化について

ワークショップ 及び事業の目的

和歌山市では、雑賀崎・田野エリアを中心に、地域固有の食や景観などの魅力、未利用・低利用の空間資源などを活用する民間投資を呼び込み、的確なマーケティングに基づいた集客力の高いコンテンツを創出・集積することで、**観光まちづくりを通じた地域再生**を目指しています。

そのために、地域の皆様と活用できる資源や魅力の再確認、地域の将来像やそれぞれができること等を考えるワークショップを全3回（予定）に渡って開催し、ワークショップで出される意見等を踏まえ、**市内外への訴求力が高いエリア造成に向けた基礎資料となるビジョン策定**を進めます。

対象エリア



ビジョンの 位置づけ

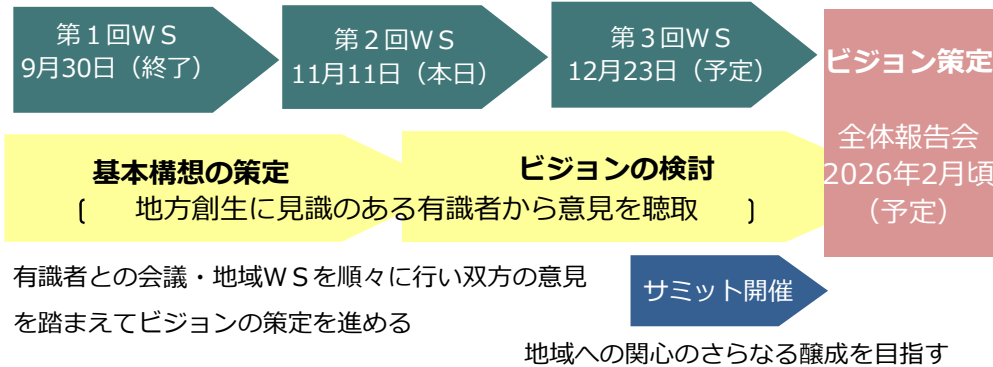
- エリアビジョン ⇒ 地域のめざす姿や方向性（10年後の姿と想定するアクションを設定）
例）エリアの将来像、基本理念、資源活用の方向性 等のコンセプトを定める
エリアビジョンに基づき、今後 地域の観光まちづくり・地域再生により、ブランド化を進める

全3回の

ワークショップ で確認したいこと

- 地域の皆様から見た 地域らしさ、地域の自慢できるところ（魅力の掘り起こし）
- 次世代のことを考えて、この地域がどうなっていて欲しいか（未来・理想について考える）
- 地域の魅力を継承していくために、それぞれができることを考える 等

事業の流れ



前回ワークショップ（2025年9月30日）で参加者から出されたキーワード

ここが地域の**魅力**

ここが地域の**課題**

手つかずの
自然・景観

漁師町

旅館街道・
古民家情緒

少子高齢化

廃墟・空き家
の増加

移動手段の
少なさ

あたたかい
コミュニティ

おいしい魚

祭り・
地域文化

生活利便性の
低さ

道路環境・
アクセスの悪さ

土地の整地の
難しさ

地域住民が思う、理想的な未来のありかた

便利過ぎなくてもいい。ただ安心して、ちょうどいい暮らしができるまち

日常の延長にある自然や景観を尊び、「何もないこと」こそがブランドになったまち

「あるものを整備することによる価値創出」と「あるがままの自然を守る」を両立したまち

地方創生に見識のある有識者から出た この地域の魅力を高めるための意見

旨みの文化圏（昔からの食文化×**新しい要素**）

地域の食文化と漁業文化を活かして「旨みを探求するまち」へ

例) 灰干しなどの、食材の旨みが増幅する要素を深掘りする体験をつくる

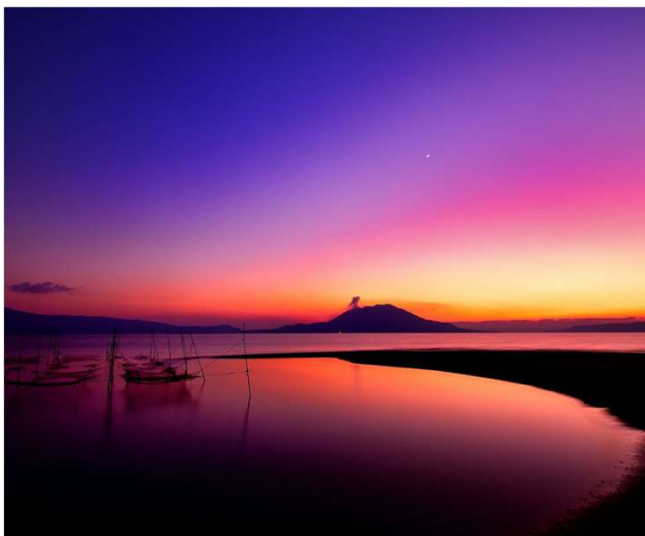


地域の魅力の磨き上げ・発展をもたらす要素

マジックアワーとアート（夕日の発展×**新しい要素**）

夕日と夜の滞在価値を高める「マジックアワー」とライトアップ

例) 美しい夕景～夜にかけての「マジックアワー」をPR。地域の象徴的な場所やアートのライトアップで夜も魅力的な景観をつくる。



キーパーソンを呼び込む（**新しい要素をもたらす人**）

この場所で何かしたいと考えるキーパーソンの発掘や出会い、参入しやすい環境をつくる



地域に新たな視点をもたらす要素



視察時の委員の感想

- ・「雑賀崎漁港の船上販売は他にない圧倒的なコンテンツ且つ伸びるコンテンツ」
- ・「ペスカツーリズムもいいし、船上販売もすでにコンテンツとして完成している」
- ・「買った魚を持ち帰るより、**港のあの場所で目の前で捌いて焼いてもらい、その場で食べたい。**そういう場所があった方がいいのではないか」
- ・「最初に取り組むならば、やはり船上販売を活かしたものになるのではないか。」
- ・「事業イメージとして、業態の異なる3種類の店舗を立地させるということが考えられる。具体的には、スペインかイタリアのバルのような店舗、アジフライが食べられるような店舗と和食。」
- ・「地元の人に認められてからでないと思うが、漁港内で上手く連携できるような場所で何かできるといい。まずは周辺で小さい店舗からでも始めていくのもよいと思う。」

**これまでの有識者からの意見、ワークショップで出た意見を踏まえ、
今後の取り組みを推進する基本構想の策定を進めます**

地域の文化、生活を大切に、次の5つの目標を達成したい

- ・ 地域独自の文化を未来へ継承する（地域の独自性、アイデンティティ）
 - ・ 地域の持続性と発展性をつくる（地域が生きていく力）
- ・ 住民がこれまで以上に誇れる地域になる（シビックプライドの醸成）
 - ・ 和歌山市への来訪の目的地化（地域による域外への効果）
 - ・ 熱いキーパーソン、民間事業者に選ばれる地域になる

グループワーク

未来の雑賀崎・田野 デザイン委員会 10年後作戦会議

10年後の町を各担当大臣（住民の皆様）が議論していく。



- 観光・経済大臣
 - 生活・環境大臣
 - 調整大臣
- の役割を、くじ引きで決定する。

各大臣は、次ページの役割を参考に、地域の具体的な場所で、活用方法を検討する。

【ディスカッション内容】

- ・ 各具体的な場所の活用方法や思い 等

【目的】

民間の力をうまく取り入れながら、人口減少や空き家の増加、老朽化したインフラなどの課題を少しずつ解決し、住み続けられるまちをつくることを目指します。

観光・
経済大臣

地域の産業・お店・観光・雇用など、
まちの経済を活性化させるためにどうすべきかを考える役割。
どうしたら、よりたくさんのお金が地域に入ってくるかを考える。

生活・
環境大臣

地域で暮らす人の「日々の幸せ」と、より豊かな地域の暮らしを考える役割。
生活利便性や快適性、地域コミュニティのあり方などを踏まえ、住んでいる人と事業者、
観光との共存の仕方を考える。

調整大臣

全体の方向性を統括し、観光・生活・経済のバランスをとる役割。

ワークショップ中の約束ごと

1

人の意見を受け止める・否定はしない！

2

「どうすべき」や「一般的に」よりも、あなた自身の思いや考えをぜひ、共有してください

3

全員が気持ちよく話せるよう、ご配慮を！

ふせん1枚に1つの意見を！

活用方法

その場所
への思い